

平成 22 年 7 月 23 日 (金)

第一部 テーマ 『相談支援についての職員の心構え』

講師 東京都知的障害者育成会 研修主任 山本多賀子氏

第二部 テーマ 『三鷹市の障がい者施策について』

講師 三鷹市役所 健康福祉部 調整担当部長 後藤省二氏

テーマ 『東京支援ノート つなぐ』

講師 三鷹市障害者(児)親の会 会長 来栖田佳子氏



三鷹はなの会では、毎年数回、全職員対象に職員研修会を行っています。職員の知識向上のための勉強会として、また普段は別々の事業所で働いている職員が共に学ぶ大切な機会でもあります。

今回は二部に分け、三名の方にご講義いただきました。

第一部では、東京都知的障害者育成会 研修主任・山本多賀子氏に『相談支援についての職員の心構え』について参加型の講義をしていただきました。

まず、全員が大きな輪になって座るところから始まりました。参加者は配られた用紙に、自分自身について「私は・・・です」を 20



項目書き出しました。それを 7~8 人の小グループにわかれて一人ずつ発表します。次に其々の人に対して、聞き手が印象に残ったことを思い出して発表します。自分の事を話すこと、人の話を聞くということは簡単なようでとても難しいと気付かされました。自分の伝えたい大切なことが伝わらず、それほど重要ではないことが相手の記憶に残るのはよくあることです。聞く側は自分の興味のあることや、相手について知っている情報等について強く記憶に残ります。また、言葉の内

容だけではなく、声の調子、表情、身振りなど言葉ではないものも重要な要素となるのです。ではコミュニケーションをどのようにとったら良いのでしょうか。話す側は、自分の話し方や声の調子など自分の伝え方を点検します。聞く側は、相手の言葉を理解し、気持ちを理解し、そしてその人自身を理解することによって、何が大切なのかを確認します。そこで必要なのが「自分自身を理解する」ことなのです。まず自分がどんなことに興味があるか、自分を知ることによって、相手に対しての理解、受容、共感へとつながっていくのです。とても分かりやすいお話であったという間の 2 時間でした。

第二部では、三鷹市役所健康福祉部調整部長の後藤省二氏に「三鷹市の障がい者施策について」現在の状況、これからの展望についてお話しいただきました。三鷹市心身障害者(児)親の会会長・来栖田佳子氏からは、東京都育成会が作った「東京支援ノート つなぐ」についての記入の仕方、活用の仕方についてご説明をいただきました。



講師の皆さまお忙しい中、本当にありがとうございました。

